

⑧支援者へのアンケート調査

こどもや子育て家庭等にかかわりをもつ市内の機関・団体の支援者に、計画の骨子案に関するアンケート調査を行いました。日ごろのこどもや保護者等とのかかわりのなかで感じている必要な支援など、本市のこども計画の充実に向けた意見が寄せられました。

ア 回答機関・団体の属性

(単位：件)

支援者の属性	かかわっている事業等	件数
子育て支援事業に従事	産後ケア、はますくヘルパー、子育て支援ひろば 等	13
保育・幼児教育に従事	保育園、幼稚園、認定こども園、小規模保育事業 等	123
学校教育に従事	小学校、中学校、高等学校 等	62
放課後の児童育成に従事	放課後児童会、放課後子供教室	18
障がい・困窮支援に従事	児童発達支援センター、学習支援教室、こども食堂 等	24
社会的養護に従事	児童養護施設、一時保護所	21
計		261

イ 支援者からの「浜松市こども計画」への主な意見

【こどもの権利】

- こどもの権利を守るという文面を第一に盛り込み、計画に記載してほしい。
- こどもの人権が守られ、こどもの意見が尊重される実効性のある計画になってほしい。
- こども、若者目線、権利という視点、根本的な視点が弱い。子どもの権利条約は根本となる理念がもっと増えるといい。
- 基本理念の趣旨に「こどもの権利を保障するための取組を進めます」の追加が必要だと考える。
- ヤングケアラーやこどもの貧困に対する対策など、こども自身の権利を守るための方針が盛り込まれていて良いと思う。

【貧困・児童虐待等】

- 経済（収入）格差によって児童の学習やスポーツ体験等に差が生じないよう、福祉的サポートの充実を切望する。
- こどもの貧困対策について、こどもに対する支援だけでなく、社会全体へのアナウンス等の施策がほしい。
- 被虐待のあるこどもが親になり、子を虐待する連鎖がある。被虐待児が親になったとき、連鎖を生まない、長期的なしくみが必要だと感じている。
- 児童発達支援施設、放課後等デイサービス施設について、受け入れ先を探すことの困難さは現場の声として聞かれている。
- 医療的なケアがあるこどもへの支援やその家族（特に母親）の就労の支援を充実してほしい。
- 外国籍のこどもへの支援の拡充が盛りこまれると良い。

【学童期・思春期】

- 小学校入学以降の放課後の支援策が不十分である。預け先がなく一人で留守番して過ごすのは、こどもの発育、発達において悪影響を及ぼすため、取り組みの充実を望む。
- 「学校以外の育ちの場」を加えていただきたい。学校と並列の関係（居場所にとどまらず）
- 行政としての中小フリースクールの支援（本人の安心、家庭の安全につながる）
- こどもたちは日々成長し変化を求められている。こどもたちが選択できるように居場所をつくることが必要と感じる。

【若者支援】

- 高校生年代への支援が薄いと感じる。若者への支援の記載が充実されるべき。
- プレコンセプションケアを浸透させる取り組みが必要である。
- 何かしら心に傷がある中高生で、非行行為をすることもをサポートできる支援があると良い。

【保護者への支援】

- ソーシャルメディアの利用に関する問題を抱えるこどもが多い。幼少期からの家庭内の問題も含むため、保護者へのメディアリテラシーを伝える機会が必要である。
- いじめ、不登校にかかわるこどもだけでなく、保護者への施策も必要である。
- 一人っ子が多く、親と子が向き合いすぎてしまうので、こども同士のかかわりの場や、親と子のかかわりの場があると良い。
- 子育てに楽しみを見いだせる保護者となるよう親の力、家庭力向上に力を入れてほしい。
- 家族構成のカテゴリの中で特に社会から孤立しているのは父子家庭である。

【全般】

- 地域全体でこどもを育てる視点が必要である。
- こども自身が充実を実感できる取組が必要だ。